

令和6年度

栃木県公立小中学校事務研究大会



令和6年12月6日(金)栃木県公立小中学校事務研究大会を、大会テーマ「実現しよう!子どもの学びの充実を目指す学校事務を」、サブテーマ「Next Step! ~第2期とちぎ学校事務ビジョンのまとめ~」とし、宇都宮市文化会館小ホールにて開催いたしました。開会式には、栃木県教育委員会をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りました。

まず、オリエンテーションで、本大会開催の目的とねらいについて、研究大会は、中期研究計画に基づき、「第2期とちぎ学校事務ビジョン」のまとめとして、成果と課題を共有し、次のビジョン策定に向けた学校事務職員の役割や、学校事務の在り方についてともに考えることだと、渡邊副会長より説明がありました。

地区発表

地区発表では那須地区より「未来の学校事務を拓くNasu Gs ~人をつなぐ 人をつくる 学びをつくる シン一枚岩~」をテーマに実践発表がありました。

那須地区では平成27年度の研究大会発表後、「研修で Skill up」「事務改善で Standard」「調査で Share」「厚生で Smile」の四つのキーワードを基に組織改編を行い、班ごとの活動を通して研究を重ねてきました。文部科学省職員による研修、グループワーク、コミュニケーション研修などを行い事務職員同士の絆をより深め、資質能力の向上を図ってきました。しかし、急激な社会情勢の変化の中で、事務職員がその専門性を発揮し、子どもたちの学びや夢の実現を支えるためには、より効果的、効率的な人材育成を行っていく必要があります。那事研では人材育成を「事務職員が目指す姿、到達目標に到達すること」と定義し「人をつなぐ、人をつくる、学びをつくる」をキーワードとして新しい人材育成プロジェクトを「NasuGs」(那須地区全体がシン一枚岩となって、持続可能な人材育成を行う)と名付け研究を進めていくと報告がありました。



また、事務職員同士をつなげる手立てとして那事研ポータルサイトを作成、公開し、日常業務での疑問を迅速に解決できる環境を提供しており、教育事務所や市町事研、共同実施組織とも連携しているとの紹介がありました。



後半は那須町立黒田原小学校 校長 内村壮一 氏、大田原市立大田原小学校 事務長 君久美子 氏、那須町立那須高原小学校 主事 人見泰雅 氏をシンポジストに迎え、二つの論点「今求められる那須地区事務職員の在り方」「那須地区が目指すこれからの人材育成」について、それぞれの立場から様々な話をうかがうことができました。

全体研究会

全体研究会では、はじめに「第2期とちぎ学校事務ビジョン」のまとめとして、「子どもの学びの充実を図る学校事務」を実現するため、「学校経営参画」を課題として取り組んできた経緯と、成果、今後の方向性について大森会長より報告いたしました。

次に「日光市学校事務ビジョンの策定について」と題し、日光市立今市第三小学校 事務長 倉澤由佳 氏より基調報告がありました。ビジョン策定には約2年かかり、テーマを「起こせ！学校革命～クリエイティブな仕事で学校経営に参画を～」、サブテーマ「目指せ！ワクワク&やりがいのある学校事務」に設定するまでの経緯の説明がありました。

ビジョンの策定により、「一人一人が学校での実践のイメージをもつことができた。また、各組織との目的の共有、連携しながらの人材育成や仕事の困り感も把握でき、支援をしやすくなった」との報告がありました。



続いて、基調報告を踏まえてシンポジウムが行われました。

作新学院大学人間文化学部 特任教授 浪花寛 氏、全国公立小中学校事務職員研究会 副会長 塩野寛 氏、日光市立南原小学校 主任 田邊貢太郎 氏、栃事研副会長 橋本和子 をシンポジストに迎え、栃事研副会長 渡邊哲夫がコーディネーターを務めました。「事務職員の学校経営参画について」「学校経営参画に向けた、これからの学校事務ビジョン」の二

つを討議の柱とし、様々な話をうかがうことができました。討議1では、田邊氏から教職員向けに見えるブックや保護者向けのリーフレットの作成について、橋本氏からは保護者との関わりや、校内、地区小中学校との連携などコミュニケーションづくりの大切さなど、それぞれの学校での実践事例のお話をいただきました。また、会場からも学校で実践されていることを発表していただきました。浪花氏からは日々自分が行っている仕事が学校経営参画につながっているということ、事務職

員が行っている事例の情報共有できるような仕組みや研修会の開催に努めてほしいとの話がありました。

討議2では、塩野氏より全事研第4期グランドデザインの目指すものやビジョンの明確化についてのお話をいただきました。また、会場からは、日光市のように、ビジョンを策定し実践されている支部から、その取組についてお話しただけました。最後に田邊氏からはビジョンをつくり行動していくことは、子どもたちの未来、希望につながっていくといったお話がありました。橋本氏からは、シンポ

ジストや会場からの話を受けて、栃事研として、社会や教育を取り巻く環境の変化や、ビジョンの成果と課題を踏まえて、これからの事務職員の在り方「子どもや教職員、保護者や地域の方々と向き合いながらともに考え、行動できるこれからの事務職員像を追求していきたいと方向性を示されました。

浪花氏から、「ビジョンを作る過程が大切ではないか。お互いに目指しているものに向かいどうしたらよいか、横並びの関係で相談できると共同学校事務室の活性化につながる。ビジョンの策定を地域でどう進めれば良いか積極的な取組を期待します」とのご意見をいただきました。

最後に振り返りを行い、今年の研究大会を終了しました。

